

にじますぼちぼち通信 2024年2月号

○ 新人の売り子です。よろしくね。



なますではなく抱き枕の方が欲しいと言われるお客さん、今のところは、いません。

おととしの秋にモンキーバナナカステラを店頭で並べてから、あれこれとレジの前での販売品を増やしてきました。その甲斐あってか最近では会計前に陳列棚を眺めているお客さんをよく見かけます。せっかくなら楽しく見てもらえるようにと、商品以外の見どころにも知恵をしぼっております。そこで今回登場を願ったのが写真の大根。以前のぼちぼち通信でも紹介した我が家の備品(?)、セクシ一大根抱き枕です。レジ目の前の特等席にデンと座り、大根のなますをオススメしています。当園の大根なます、藤丸店があった頃は一年を通じて根強い人気の定番商品でした。ちょっと不思議なのは、「自分で作ればいいんだけど、なかなかね」と、言いながら買われる方が多いこと。誰に言い訳していたのでしょうか。

○ 4年の沈黙をやぶり、静かに復活。でもいつまで続くか、未定。

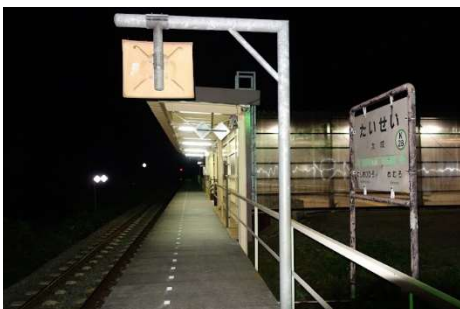
わたしが子どもの頃、一番好きなにじます料理が「甘露煮」でした。から揚げでもあらいでもなく「甘露煮」です。特に好きだったのが背骨の部分。普通の焼魚だと固くて食べられない背骨がほどよく柔らかくなり、とはいえ身の部分よりは少しだけ歯ごたえのある感じが好きで、よく骨だけ外して食べていました。いえ、そんなにいつも食べていたわけではありませんよ。近年は魚を丸ごと料理する機会が少なくなっているせいでしょうか、以前店頭で甘露煮を並べていたとき、頭のついた魚を見て「目が怖い」という声を聞くことがありました。初めて聞いたときは驚きましたが、一度ならず耳にするということは時代の変化でしょうか。調理中に頭のとれた甘露煮も、それはそれでちょっと怖いんですけどね。



甘露煮を煮るときは大きな鍋で大量に煮ます。なので、失敗した時は大量に失敗します。お怖い。

○ 芽室にはふたつの駅がある。ひとつは「芽室駅」もうひとつは...

高校時代は毎日JR（国鉄？いや、JRになっていたはず）で通学していましたが、自分で運転するようになると鉄道に乗る機会は格段に減りました。たまに札幌方面に特急に乗っていくぐらいでしょうか。年末に帯広で忘年会があり、久しぶりに普通列車に乗ってみました。わたしの住む東めむろの最寄り駅は「大成駅」。駅といっても券売機もなければ改札もない、ただの「ホーム」です。列車の乗り降りには運転手さんのいる一番前のみ。最初に乗る人はボタンを押してドアを開けます。乗るときには忘れずに「整理券」を取りましょう。料金は車内で払わず、帯広駅についてから精算窓口で支払います。...



「絵になる」と言えなくもない吹きさらしのホーム、この時期はとにかく寒い。

ってこれ、初めての人にはわからないことばかりですよ。 「無人駅の正しい列車の乗り方」をどこかに貼っておいて欲しいな。乗ったのが土曜日の夕方ということで高校生の姿はまばら、列車も空いているはず...と思えば同じように飲みに行くと思しき人たちで大混雑。やっぱりみんな、飲みたいんだ。